

障子越しに螢が飛んでくる  
そういう時代でした

宮田正子さん（六十代）

加藤木弘司さん（六十代）

### 身近な川

〈加藤木さん〉藤井川は昔、流れの変化によって沼と言われるようなのがいくつあつて、そこで釣りをしていました。我々小さい頃は、「古川」って呼んでたんですけど。主にフナが釣れました。小さい頃は、モツゴという名前が呼んでました。いわゆるハヤとかオイカワとかって同じ種類だと思っんですけど。釣りに行くのは、三人か四人で行きました。大体いつも同じ仲間です。その中の一人のおじいさんに釣りを教わりました。確か、竿は古い竿をいただいて始めたっていう記憶がありますね。釣った魚は、家を持って帰ってきて、生かしましたよ。食べる気はしなかったです。釣るといふ楽しみと家を持ち帰って生かすといふ楽しみがありました。

### 自然環境の変化

〈加藤木さん〉人間が住みやすくするために、当然ながら、道路も砂利道から舗装にしたり、曲がっている道は直線に近いそういう工事がされています。生活の環境を考えればしやすくはなってきたんでしょうけど、でも遊び場はないですね。昔は、昆虫を取る、季節的に野鳥を取りに行くとか、魚釣りに行くとかってというのが、当たり前のように遊びの一つだったんですね。藤井川はもう護岸工事されてコンクリートになってますけど、昔は自然で、裸足で歩くの

は危険なんですよ。小さい頃は川で泳いでましたからね。自然環境の中で子どもたちが遊ばなくなりました。二十数年前までは、子どもと虫捕りは行っていました。

〈宮田さん〉カブトムシで喜ぶ子どもがいなくなりました。

〈加藤木さん〉田舎の子どもって言ったら変ですけど、やっぱり楽しかったですよ。私らが子どもの時は、カブトムシやクワガタを捕つて、虫かごに入れてスイカの食べた皮の中に入れておきましたね、虫のために。生き物を育てるといふことはいつか死ぬんで、それを学ぶようになったんですよ。螢は私の自宅で見つたという記憶がありますけど、最近ほとんど見ませんね。今もいることはいらないと思いが、

〈宮田さん〉おそらく、螢は小川や田んぼの近くじゃないといかないので、農薬とか撒いたりすると出てこなくなっちゃうんですよ。農業用水なんかもね、川に流してあるし、影響あるでしょうね。

### 過去の水害

〈宮田さん〉私が小学校六年生の時、台風で水が出たんです。中学一年生になったら、みんな揃うからって三校一緒に旅行に行くんですよ。他の学校の子だったんですけど、男の子が流されて一週間見つからなかつたことがあつて、旅行に行けなかつたって、それで覚えがあるんですよ。小勝で亡くなったのが、城北の方の川で見つかったそうなんです。

〈加藤木さん〉記憶の中では、明らかに昔と変わりましたし、雨も雪もそうですよ。雨はいわゆるゲリラ豪雨という言い方されますけど。そこまでの集中的な雨は記憶にないですね。

いわゆる長雨っていうように、長い間雨が降つたっていうのはありますけど、短時間で大量の雨が降つたっていうのは覚えがない。水害っていうのは、昭和六十一年の台風の被害が、大きな水害。六十一年の時は、那珂川から藤井川と西田川に逆流してきて、私が聞いた話では、先に西田川から水があふれて、藤井、岩根方面も。

〈宮田さん〉那珂西の坂と渡里の坂が一緒になりましたからね。湖になりました。高速の所の電線とかに布団が引つ掛かっていた。信号にはゴミがかかっていた。那珂川は牛が流れてきたし。

### 台風十九号の記憶

〈宮田さん〉昭和六十一年の時と台風十九号の水の量は多かったですね。私、自治会もやっているの、お手伝いしなくちゃいけないと思つて。だけど、助けようも何もありませんよ。藤井川から上がってきて、水門から回ってきて、旧道の方に入つて、田んぼいっぱいになつてという感じなので。西田川と藤井川が決壊したので、その水が全部岩根方面に行っちゃつたんですよ。すごかったですよ、速さが。波打つたみたい。朝五時過ぎには、田んぼに水は入っていません。岩根なんかは、一メートル八十センチ近く、一階が全部埋まっちゃつてるところが随分あつたんですよ。飯富三区の上の方はそこまではいらないですよ。床上も何軒かだし、農作業用の機械とかを上げるのに大変つていふのはありましたね。

### 自然災害の通り道

〈宮田さん〉ひょうとか地震とかの通り道な

んです。地震があると、まっすぐは全部やられるんですけど、その周りは何もやられない。周りは大したことないんだけど、うちのまっすぐ行っただけは。屋根も地震の時はだいぶ落ちました。

〈加藤木さん〉地盤がそういう地盤なんだよ。うちなんか全然。コップ一個割れていない。雨雲の通り道って言い方よくありますからね。

### 当時の写真・動画を見て

〈宮田さん〉とにかく岩根方面、大変だったね。今まで八十センチで止まっていたところが、一メートル八十センチまでいったわけだからね。

〈加藤木さん〉どこで決壊したかによると思うんですけどね。今回は、城東の護岸工事してたから。きちんと堤防を作ったために、この藤井川の堤防が決壊したんですね。下流の方がしっかりしたために。

〈宮田さん〉今までだったら、砂利をとって深くしていたんだけど、それがなくて、堤防だけ高くしているから、深さ的にはあんまりね、ないのかなって言う感じはしますよ。

### 地域の助け合い

〈宮田さん〉私が嫁に来てから、三回くらい火事があったんです。一回目は、親戚の家だったんですけど、炊き出しとかやりました。その次は、納屋全部燃えて、その時は組内全部で手伝いに行って、綺麗にしちゃいました。

〈加藤木さん〉飯富地区でも、我々の住んでいる地区は非常に付き合いが上手いというか、しっかりしています。

〈宮田さん〉本人もみんなにやってもらった

っていうのがあるから、お返しする気持ちが多いんですよ。他から聞くと、すごくいい地域って言われますよ。

### 地域運動会

〈宮田さん〉二〇一九年できなくて、二〇二二年もコロナとかでやってないんですよ。場所は中学校の運動場です。楽しいですよ。

〈加藤木さん〉飯富地区って五つに分かれています、我々は三区で、常に優勝を目指しています。こういう思いでやるのは我々ぐらいかな？

〈宮田さん〉その後がないんですよ。子どもたちが区ごとに分かれようにも人数が少なくて、結局棄権になっちゃう。今、一番困るところですかね。みんなの家庭に写真一枚ずつ配って、はちまき作ろうとか、何かしら作ろうとか結構やっています。本当に団体戦ができるというと思うんですけどね。

〈加藤木さん〉リレーなんか、バトン渡しの練習なんかするんですよ。

〈宮田さん〉団体戦ってできなくなっちゃうと思うんですよ。それとやっぱり密になるので、個人種目をやるくらいでお昼前くらいで終わるくらいのができたらいいなって色々考えています。



冠水した道路